

産学官の 橋わたしに向けて



第1回理事懇談会

12月3日に第1回理事懇談会を開催し、塩路勝久理事長らと理事・幹事で懇談形式の意見交換を行いました。これは初の試みで、下水道機構全体の事業の流れや進捗を改めて説明し、理事・幹事の皆様に理解を深めていただくことを目的としています。

理事懇談会では、令和6年度の事業執行状況、次期中期事業計画、審査証明技術のフォローアップ状況のほか、官学交流・共創会議といった最近の試み、下水道機構としてのウォーターPPPや下水汚泥の肥料化に向けた取り組みについても説明しました。



第2回技術委員会

12月17日に令和6年度第2回技術委員会（委員長＝京都大学・松井三郎名誉教授）を実施しました。今回は、新規テーマ2件、継続テーマ4件、終了テーマ1件の合計7件が審議されました。新規テーマ、終了テーマは以下の通りです。

【新規】▽下水処理場におけるエネルギー監視装置に関する共同研究▽流出解析モデル利活用マニュアル改訂に関する共同研究【終了】▽プラチナシステムを用いた脱炭素化技術の開発に関する共同研究



技術委員会の部門別委員会を開催

技術委員会の部門別委員会として、第1回調査検討支援委員会（11月18日）、第2回汚泥処理・資源化技術評価共同研究委員会（11月21日）、第1回水処理・資源化技術評価共同研究委員会（11月27日）、第2回管路技術共同研究委員会（11月27日）、第2回雨水対策共同研究委員会（11月29日）、第2回システム共同研究委員会（12月11日）を開催しました。

地域の水環境 官学交流・共創会議 <アトリエMizukara>

10月31日、11月1日に長野市で第3回を、11月21日、22日に大分市で第4回（写真）を開催しました。大学や高専の研究者、地方公共団体の職員の方に講演をいただくとともに、官学連携に関する意見交換会を実施しました。第3回については本誌「下水道機構の動き」コーナーで詳しい報告を行っています。第4回については、下水道機構情報第43号（WEB版）にて掲載を予定しています。



第70回新技術現場研修会

11月29日に、新潟市下水道部のご協力の下、第70回新技術現場研修会を開催し、地方公共団体および下水道機構の出捐団体・賛助会員の下水道技術者等、約30名に参加いただきました。当日は、シールド工法で実施中の鳥屋野・万代・下所島排水区雨水バイパス管下水道工事（内径3,500mm、延長2,361m）、松浜雨水ポンプ場調整池（貯留量16,500m³）工事の現場を見学しました。



第82回下水道新技術セミナー，技術サロン

「下水污泥資源の肥料利用に向けた取組み」をテーマとした第82回下水道新技術セミナーを12月13日にウェビナー方式で開催しました。基調講演として東京大学名誉教授の芋生憲司氏（写真左）が「下水污泥の肥料利用」、特別講演として国土交通省上下水道企画課企画専門官の末久正樹氏（写真中央）が「下水污泥有効利用にかかる最新の施策・技術動向」、農林水産省農産局技術普及課課長補佐の島宏彰氏（写真右）が「国内肥料資源の利用拡大に向けて」と題し、講演されました。また、埼玉県、名古屋市、岩見沢市から事例発表をいただきました。

10月～12月には技術サロンをウェビナー方式で開催しました。第432回では近畿大学経営学部経営学科教授の浦上拓也氏が「上下水道分野の官民連携とウォーターPPPについて」、第433回では東京科学大学環境・社会理工学院教授の吉村千洋氏が「流入下水の水質ビッグデータを用いた流域圏における価値創造に向けて～東京都区部における解析例～」、第434回では一般財団法人造水促進センター専務理事の大熊那夫紀氏が「ここまで来た下水処理水等の再利用」をテーマに講演されました。第432回、第433回の講演内容については、本誌「講演ダイジェスト」コーナーで紹介しています。また、第434回については下水道機構情報第43号（WEB版）にて掲載を予定しています。

